

- 問1 戦国大名が制定した「分国法」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
- 江戸幕府が全国の大名を統制するために、城の修理を制限することなどを目的とした。
  - 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。
  - 明治政府が近代的な国家を樹立するために、国民の権利と義務を定めた。
  - 鎌倉幕府が御家人同士の土地争いを公平に裁判するために、源頼朝以来の先例をまとめた。
- 問2 室町時代に足利義満が開始した、大陸との外交や貿易の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。
  - イエズス会の宣教師であるフランシスコ・ザビエルを布教を保護する条件として、ポルトガル船との間で南蛮貿易を開始した。
  - 博多湾を襲撃した元軍を退けた後、元の優れた文化を導入するために、北条氏を中心となって大陸との官民一体の貿易を推進した。
  - 幕府が発行した「朱印状」を携えた船が、東南アジアの諸港へ出向いて、香料や絹織物などを取引する自由貿易を行った。
- 問3 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- 徳政令
  - 下剋上
  - 惣一揆
  - 執権政治
- 問4 16世紀に起きた「ルターによる宗教改革の開始」「イエズス会の設立」「フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来」という3つの出来事について、時期の早いものから順に正しく並べたものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
- フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立
  - ルターによる宗教改革の開始 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → イエズス会の設立
  - イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始
  - ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来
- 問5 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。
  - 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。
  - 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。
  - 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。
- 問6 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- マゼラン海峡
  - スエズ運河
  - 喜望峯
  - パナマ運河
- 問7 14世紀から15世紀にかけて、室町幕府の支配力が次第に弱まり、幕府の権威が失墜していきました。このような社会情勢の中で、下の者が実力で上の者を倒して地位を奪う風潮が広まりましたが、この風潮を何と呼びますか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- 尊王攘夷
  - 下剋上
  - 大政奉還
  - 門閥政治
- 問8 室町時代後期、応仁の乱をきっかけに幕府の権威が衰えると、実力で領地を拡大する戦国大名が登場しました。彼らが自らの領国内の武士や民衆を統治し、秩序を維持するために独自に定めた法を何といいますか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- 武家諸法度
  - 公事方御定書
  - 御成敗式目
  - 分国法
- 問9 石見銀山では16世紀前半に「灰吹法」という新しい精錬技術が導入されたことで、銀の生産量が飛躍的に増大しました。この銀が当時の社会や国際情勢に与えた影響についての説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- 銀の増産によって日本独自の通貨制度が完成し、中国から輸入されていた銅銭は一切使われなくなった。
  - 生産された銀はすべて国内の寺院や仏像の装飾に費やされ、戦国大名の信仰心を深める役割を果たした。
  - 銀は貴重な軍事機密として厳重に管理され、江戸幕府が成立するまで海外の商人と取引されることはなかった。
  - 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。
- 問10 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- 寄合
  - 惣領制
  - 徳政令
  - 下剋上
- 問11 「朝倉孝景条々」や「甲州法度次第」といった分国法の中に見られる、戦国大名による統治の具体的な特徴として正しいものを一つ選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- 将軍の許可なく大名同士が婚姻を結ぶことを禁じ、参勤交代の義務を明文化した
  - 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた
  - すべての土地と人民は天皇に帰属するという公地公民の原則を再確認した
  - キリスト教を保護し、ヨーロッパとの自由貿易を領国内の全ての商人に奨励した
- 問12 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- 島津氏と大友氏
  - 尼子氏と毛利氏
  - 武田氏と上杉氏
  - 織田氏と今川氏
- 問13 戦国大名の朝倉氏が定めた分国法（領国内の法律）の中には、家臣は自分の領地に城を構えることを禁止し、大名の本拠地である一乗谷に集まって住むべきことや、各地の統治には代わりの役人を配置することなどが記されています。このように、戦国大名が家臣を強制的に呼び寄せ、あわせて商工業者を集めることで経済の活性化を図った、領国の政治・経済・文化の中心地を何と呼びますか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
- 宿場町
  - 港町
  - 城下町
  - 門前町

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                        |                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 2<br>領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。                       | 分国法には「喧嘩両成敗」の原則が多く取り入れられました。これは、家臣が勝手に武力で紛争を解決することを禁じ、大名が裁判権を握ることで領国内の平和を維持し、団結を強める狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、大日本帝国憲法などの説明です。                                                           |
| 問2  | 答え 1<br>明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。 | 室町幕府の3代将軍である足利義満は、明との国交を樹立し、日明貿易（勘合貿易）を始めました。この貿易では、当時沿岸部で活動していた海賊（倭寇）と正式な使節を区別するために、「勘合」と呼ばれる照合用の札が使われたのが大きな特徴です。                                                                                   |
| 問3  | 答え 2<br>下剋上                                                            | 応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。                                                                                                   |
| 問4  | 答え 4<br>ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来           | まず1517年にルターがドイツで宗教改革を始めました。これを受けてカトリック側が勢力回復のために1534年にイエズス会を設立しました。そしてその一員であるフランシスコ・ザビエルが1549年に日本の鹿児島へ到着し、キリスト教を伝えました。この時系列は「宗教改革への対抗手段として海外布教が始まった」という因果関係と結びついています。                                |
| 問5  | 答え 3<br>集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。                        | 鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。                                     |
| 問6  | 答え 3<br>喜望峰                                                            | アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。                                                                              |
| 問7  | 答え 2<br>下剋上                                                            | 応仁の乱以降、室町幕府の将軍や守護大名の権威が低下したことで、実力を持つ家臣や国人が主君を追放して自ら領地を治める動きが全国で見られるようになりました。この現象は戦国時代の大きな特徴であり、新たな支配者である戦国大名が誕生する要因となりました。                                                                           |
| 問8  | 答え 4<br>分国法                                                            | 室町幕府の支配力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名は自らの領国を自立して治める必要がありました。そこで、家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、年貢の徴収、婚姻の制限などを定めた独自の法である分国法（家法）を制定しました。なお、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度や公事方御定書は江戸時代の法です。                                                  |
| 問9  | 答え 4<br>大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。          | 灰吹法の導入により高品質な銀の大量生産が可能になると、その銀は博多などの港を通じて中国（明）や朝鮮半島、さらには東アジアに進出していたポルトガルやスペインとの貿易に用いられました。これにより、日本は世界有数の銀産出国として世界経済に組み込まれることになりました。戦国大名が石見銀山を欲したのは、この銀を背景とした強大な経済力や武器・物資の調達能力を手に入れるためです。             |
| 問10 | 答え 4<br>下剋上                                                            | 室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。                                                                           |
| 問11 | 答え 2<br>家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた                   | 戦国大名は生き残りをかけて、実力主義による人材登用（朝倉孝景条々など）や、家臣が勝手に拠点を作って反乱するのを防ぐための城郭の制限を行いました。選択肢にある「婚姻の禁止や参勤交代」は江戸時代の武家諸法度の内容であり、「公地公民」は飛鳥時代の制度です。                                                                        |
| 問12 | 答え 2<br>尼子氏と毛利氏                                                        | 石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。 |
| 問13 | 答え 3<br>城下町                                                            | 戦国大名は、それまで自分の領地に城を持っていた家臣たちを、大名の居住する本拠地に集まって住ませる「集住（しゅうじゅう）」を進めました。これにより家臣の反乱を防いで統制を強めるとともに、商工業者を呼び寄せて物資の流通を盛んにしました。福井県の一乗谷（朝倉氏）や、山梨県の甲府（武田氏）などがその代表的な例です。                                           |